

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(市町総括表)
【単独】・連携事業

市町名	栃木市
-----	-----

(単位:円)

No.	単位事業名		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計
1	歌麿を活かしたまちづくり事業	総事業費	4,859,912	4,200,000	4,200,000	3,500,000	3,500,000	20,259,912
		うち市町支出額	1,800,000	1,800,000	1,800,000	900,000	900,000	7,200,000
		うち県交付金	900,000	900,000	900,000	0	0	2,700,000
2	渡良瀬遊水地フェスティバル開催事業	総事業費	3,563,609	3,450,000	3,580,000	3,500,000	3,500,000	17,593,609
		うち市町支出額	2,732,000	2,732,000	2,732,000	2,700,000	2,700,000	13,596,000
		うち県交付金	1,350,000	1,350,000	300,000	0	0	3,000,000
3	高校生まちなか活性化事業	総事業費	111,766	120,000	120,000	70,000	70,000	491,766
		うち市町支出額	100,000	100,000	100,000	50,000	50,000	400,000
		うち県交付金	50,000	50,000	50,000	0	0	150,000
4	栃木市版地域包括ケアシステム推進事業	総事業費	621,228	305,000	400,000	400,000	400,000	2,126,228
		うち市町支出額	300,000	150,000	200,000	200,000	200,000	1,050,000
		うち県交付金	150,000	75,000	100,000	0	0	325,000
5	渡良瀬バルーンレース開催事業	総事業費		5,514,000	5,514,000	5,514,000	5,514,000	22,056,000
		うち市町支出額		4,300,000	4,300,000	4,300,000	4,300,000	17,200,000
		うち県交付金		1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	3,000,000
6		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
7		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
8		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
9		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
10		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
市町計		総事業費	9,156,515	13,589,000	13,814,000	12,984,000	12,984,000	62,527,515
		うち市町支出額	4,932,000	9,082,000	9,132,000	8,150,000	8,150,000	39,446,000
		うち県交付金	2,450,000	3,375,000	2,350,000	1,000,000	0	9,175,000

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	栃木市
事業名	歌麿を活かしたまちづくり事業
事業主体の名称	歌麿を活かしたまちづくり協議会
代表者の名称	会長 大木 洋
事業主体の所在	栃木県栃木市万町9番25号
事業主体の概要	<p>・団体の目的:喜多川歌麿の業績をたたえとともに、栃木市の関わりを市内外に発信し、ゆかりの地として、歌麿の作品や足跡を活かしたまちづくりをし、「まちなか」の賑わいを創出することを目的とする。</p> <p>・設立年月日:平成28年5月24日</p> <p>・構成員等:栃木市商店会連合会、栃木の例幣使街道を考える会、小江戸とちぎ会、みつわ横丁歌麿通り商店会、うずま川遊会、文化団体等の協議会(役員は各団体等からの代表者22名により構成)</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>栃木市では、江戸時代の浮世絵師 喜多川歌麿の肉筆画3点(「女達磨図」「鐘廬図」「三福神の相撲図」)を所蔵している。平成23年にちぎ蔵の街美術館での3点揃っての公開に合わせて、歌麿を活かした文化・芸術のまちづくりを行おうと、市民団体等が主体となり「歌麿まつり」を開催し、翌24年には、歌麿まつり実行委員会を発足、以後、毎年10月から11月にかけて開催している。</p> <p>まつりを開催するにあたっては実行委員会を組織し、会議を重ねながら企画内容を決定、開催してきたが、まつり期間だけの活動であること、歌麿と栃木市の関わりを市内外に十分に周知すること、並びに「まちなか」のにぎわいを創出し、まちづくりに繋げることが難しいことから、実行委員会の関係団体が、昨年度「歌麿を活かしたまちづくり協議会」を設立して「歌麿まつり」はもちろん、まつり期間以外にも年間を通して活動を行っている。また、課題としては、協議会が設立し初年度ということもあり、歌麿まつり期間以外の企画が少ないことなどにより、交流人口が少なく十分に観光客を取り込むことができていないことが挙げられている。</p>
事業目的	<p>ゆかりの地として、歌麿の作品や足跡を活かしたイベントを開催し、「まちなか」の賑わいを創出することにより歌麿と栃木市の関わりを市内外に発信し、観光客を入れ込むとともに、牽いてはまちづくりに繋げていくことを目的とする。</p>
事業概要	<p>7回目となる本年度の歌麿まつり(10月下旬)としては、中心イベントとなる「歌麿道中」に加え、関係団体が体験型を中心とした関連イベントを開催する。また、期間外イベントとして、本年度は歌麿の肉筆画の大作「深川の雪」・「品川の月」・「吉原の花」を所蔵している各美術館が連携して「雪月花」三部作揃っての展覧会が開催されることから、その期間に合わせて、「歌麿夢芝居」再公演をはじめ、岡田美術館への観賞バスツアーや各団体による関連イベントを開催する。</p> <p>①歌麿まつり「歌麿道中(おいらん道中)」並びに関係団体による関連イベントの開催 ②歌麿と栃木市の関わりを描いた演劇「歌麿夢芝居」の再公演(5月13日:2回公演) ③岡田美術館での「雪月花」三部作揃っての展覧会観賞バスツアー ④高精細複製画「雪月花」三部作揃っての特別展示 ⑤歌麿まつり期間外での関係団体による関連イベントの開催 ⑥歌麿の肉筆画「女達磨図」(市所蔵)の浮世絵刷り体験(常設)</p> <p>【広報関係】 県内並びに宇都宮から浅草までの東武鉄道沿線の地域へのPRを重視し、市ホームページやケーブルテレビによる情報提供や県内各市町へのポスター・チラシの送付をはじめ、東武鉄道沿線の各駅へのポスター掲示等を行う。また、本年度から栃木県を対象としたデザインキャンペーンに合わせて、観光振興課と連携して県内外への広報活動を行う。</p> <p>【翌年度以降の取組】 上記の事業を継続する他、協議会の研修部会やまちづくり部会の活動を充実させて、歌麿と栃木の関連を広く伝えるための研修会や講演会等の開催についても取り組んでいく。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」 【具体的施策】交流人口の増加／観光資源の魅力向上と有効活用 【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数:5年後に年間380万人(平成26年度末現状値 365万人) 平成27年実績:3,892,192人 平成28年実績:未定</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

事業内容	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
	①歌麿まつりの開催 (歌麿道中・歌麿夢芝居など) ②関係団体による体験型を中心とした関連イベントの開催(歌麿まつり期間に限らず開催) ③高精細複製画3点の特別合同展示(10月～12月)	①歌麿まつりの開催 ②歌麿夢芝居の再公演 ③関係団体による体験型を中心とした関連イベントの開催(歌麿まつり期間に限らず開催) ④高精細複製画3点の特別合同展示 ⑤歌麿と栃木関連の資料・情報の収集	①歌麿まつりの開催 ②関係団体による体験型を中心とした関連イベントの開催(歌麿まつり期間に限らず開催) ③高精細複製画3点の特別合同展示 ④歌麿と栃木関連の資料・情報の収集	①歌麿まつりの開催 ②関係団体による体験型を中心とした関連イベントの開催(歌麿まつり期間に限らず開催) ③高精細複製画3点の特別合同展示 ④歌麿と栃木関連の資料・情報の収集	13,259,912
事業費	4,859,912	4,200,000	4,200,000	13,259,912	3,500,000
市町支出金(ソフト事業分)	1,800,000	1,800,000	1,800,000	5,400,000	900,000
うち県交付金	900,000	900,000	900,000	2,700,000	
市町支出金(ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	0
その他自主財源等	3,059,912	2,400,000	2,400,000	7,859,912	2,600,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部 蔵の街課 蔵の街推進係
担当者名	佐藤 義美
電話	0282-21-2573
FAX	0282-21-2674
E-mail	kuranomachi@city.tochigi.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単体事業調査)
【単体事業】

市町名	栃木市
事業名	渡良瀬遊水地フェスティバル開催事業
事業主体の名称	渡良瀬遊水地フェスティバル実行委員会
代表者の名称	実行委員長 小黑 迅
事業主体の所在	〒323-1104 栃木県栃木市藤岡町藤岡1788
事業主体の概要	設立年月日:平成27年6月12日設立 構成員:全日本実業団自転車競技連盟(JBCF)、宇都宮ブリッツェン、特定非営利活動法人スカイダイブ藤岡、一般社団法人栃木市熱気球クラブ、公益社団法人日本グライダークラブ、足利マイクロフライトクラブ、サークルストライド、渡良瀬カヌークラブ、栃木県セーリング連盟
当該事業に係る地域の現状と課題	「渡良瀬遊水地フェスティバル」は、これまで栃木市及び栃木市教育委員会主催で行ってきたが、行政主体ではなく、平成27年から実行委員会を組織し、参加団体の意見をより反映できるような市民協働のイベントとして開催。渡良瀬遊水地は3,300haという広大な敷地に、本州最大のヨシ原がありその立地特性から、以前からスカイスports、ウォータースportsが盛んな場所、地元栃木市に熱気球クラブやスカイダイビングのNPO法人などがあり、日常的に親しまれてきた。しかし、騒音やマナー、安全性、動植物に与える影響の面で、地域住民および環境保護団体との問題により、それら広大な土地や貯水地などの自然環境や地域資源を活かした活動やイベントに広がりを見せず、利用者や観光客のニーズを満たすことができていない。今後は本市への新しい人の流れを作るために、ラムサール条約の基本理念である環境保護と、地域資源の利活用の両面を、一般市民及び市外、県外、世界の方にPRし、ルールとマナーを守って今ある環境を未来につなげるための取り組みが必要である。県内外から新規の観光客の促進を図り、自然環境の保護と、これまで行われてきた広大な遊水地で特色のあるレジャースportsの利活用を強化、両立し、いかに地域住民、イベント参加者、観光客に対して環境保全の周知と遊水地の魅力をPRできるかが、観光客入込数を増加させるための課題である。
事業目的	「渡良瀬遊水地及び周辺で日常的に親しまれているレジャースportsの熱気球やスカイダイビング、グライダーなどの他、栃木市のPRを行う」目的で始まったイベントである。来訪者に対し、渡良瀬遊水地および栃木市のさらなるPRを行い、交流人口の増加による地域の活性化を目指す。
事業概要	今年度は、渡良瀬遊水地の地域資源であり、水質浄化作用や湿地の代表的なヨシの利活用体験により、環境保護意識を高めてもらい、ボランティアガイドによる渡良瀬遊水地の見どころ案内を行う。治水や利水、遊水地の歴史や文化についても案内するとともに遊水地に対して理解を深めてもらうとともに、遊水地で日常的に行われているレジャースportsが一堂に介し、見るだけでなく、体験プログラムを充実することでルールとマナーを一般の方にも学んでもらうとともに、県内外からの新たな誘客を促進する。 【時期】平成29年9月3日(日) 【会場】渡良瀬遊水地内及びその周辺 【主な内容】①よしづ編み体験・・・(地域資源であるヨシの活用と体験) ②ガイドクラブによる遊水地の見どころ案内・・・(ボランティアによる遊水地ミニツアー) ③JBCFタイムトライアルチャンピオンシップ開催・・・(プロの団体が参戦するロードバイクの大会) ④スカイダイビング・グライダー・カヌー無料体験・・・(広大な渡良瀬遊水地で行われる各スポーツの体験) ⑤熱気球教室、係留体験・・・(操作をしながらルールとマナーを学ぶ体験) ⑥渡良瀬遊水地及び栃木市PR・・・(渡良瀬遊水地の歴史や自然環境のパネル紹介および、名産特産品紹介) 年間を通して楽しませているレジャースportsは、今回のイベント開催に限らず、4月のバルーンフェスティバル、7月のラムサール登録記念イベント、8月のEポートレース大会、11月のウォーキング大会など市主催のイベントにて各種の利用団体および一般参加者に遊水地のルールやマナーの啓発に努める。翌年度以降も「ルールとマナー」を継続しながら、栃木市の宝である渡良瀬遊水地を未来につなげるための環境保全の取組を行いつつ、渡良瀬遊水地で特色のあるレジャースportsに力を入れて、新しい観光客の増加に努め事業の拡大を図る。 ・渡良瀬遊水地は地域特性として4県4市2町にまたがり、もともと市外、県外からの来訪者が多いが、広報活動においては、各種のレジャースportsを楽しむ団体の方々や一般の来訪者へ市の広報の他に、タウン誌やラジオ、HP、facebook、チラシ、ポスター等で周知を行い、県内外へのさらなる広域的なPRを行う。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」 【具体的施策】交流人口の増加/観光資源の魅力向上と有効活用 【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数:5年後に年間380万人(平成26年度365万人) 平成27年度実績:3,892,192人 平成28年度実績:未定

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度(実績)	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①よしづ編み・よし紙すき体験 ②ガイドクラブによる遊水地の見どころ案内 ③JBCFタイムトライアルチャンピオンシップ開催 ④スカイダイビング、グライダー、カヌー無料体験 ⑤熱気球教室、係留体験 ⑥渡良瀬遊水地及び栃木市PR	①よしづ編み体験 ②ガイドクラブによる遊水地の見どころ案内 ③JBCFタイムトライアルチャンピオンシップ開催 ④スカイダイビング、グライダー、カヌー無料体験 ⑤熱気球教室、係留体験 ⑥渡良瀬遊水地及び栃木市PR	①よしづ編み・よし紙すき体験 ②ガイドクラブによる遊水地の見どころ案内 ③JBCFタイムトライアルチャンピオンシップ開催 ④スカイダイビング、グライダー、カヌー無料体験 ⑤熱気球教室、係留体験 ⑥渡良瀬遊水地及び栃木市PR		①よしづ編み体験 ②ガイドクラブによる遊水地の見どころ案内 ③JBCFタイムトライアルチャンピオンシップ開催 ④スカイダイビング、グライダー、カヌー無料体験 ⑤熱気球教室、係留体験 ⑥渡良瀬遊水地及び栃木市PR
事業費	3,563,609	3,450,000	3,580,000	10,593,609	3,500,000
市町支出金(ソフト事業分)	2,732,000	2,732,000	2,732,000	8,196,000	2,700,000
うち県交付金	1,350,000	1,350,000	300,000	3,000,000	
市町支出金(ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	831,609	718,000	848,000	2,397,609	800,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部 遊水地課 環境保全ワイズユース係
担当者名	堀江 修
電話	0282-62-0919
FAX	0282-62-0922
E-mail	wise-use@city.tochigi.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	栃木市
事業名	高校生まちなか活性化事業
事業主体の名称	とちぎ高校生蔵部
代表者の名称	吉谷 悠樹
事業主体の所在	〒328-8686 栃木県栃木市万町9-25 栃木市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課内
事業主体の概要	<p>・団体の目的:ポランテアやまちづくりに関心のある高校生が気軽に集い、同世代の仲間だけでなく大人とも語り合いながら、高校生の視点による自主的な活動を展開し、栃木市の賑わいの創出に寄与することを目的とする。</p> <p>・設立年月日:平成26年4月1日</p> <p>・構成員等:栃木市内に居住する高校生及び市内の高等学校に在学する高校生並びにとちぎ高校生蔵部の目的に賛同する高校生</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>・市内の高等学校に通学する生徒が中心となり、「とちぎ高校生蔵部」を立ち上げ、まちなかでのイベントに参画している、栃木市中心部においても高齢化が進捗し、イベント等での担い手が不足していることから、高校生の視点による事業を展開し、中心市街地の活性化を図る必要がある。</p> <p>・「とちぎ高校生蔵部」の取り組みにより、高校生の地域づくり活動への関心が高まってきている一方で、地域のイベント等での担い手要請は後を絶たない状況である。そのようなことから、まずは高校生が街なかの魅力に触れる機会を創出し、イベントに参加した高校生が栃木市の魅力に触発され、将来の地域の担い手として活動してもらえ環境整備が必要である。</p>
事業目的	高校生の視点による栃木市の魅力発信と街なかの賑わい創出
事業概要	<p>【平成29年度】</p> <p>①地元商店等の協力を得ながら、高校生がお勧めする「栃木の街散策マップvol.3」を作成し、栃木市の魅力を観光客や市内に通学する高校生に発信する。</p> <p>②上記で制作したマップを活用した若者及び栃木市来訪者向けの街歩きイベントを開催する。</p> <p>③栃木市の魅力あるロケーション(歴史的建造物や巴波川など)を活用した、若者向けの「My記念日撮影会」を開催する。</p> <p>【平成29年度実施事業の特徴】</p> <p>①マップづくりは、学割を実施する店舗数を増やす取り組みを併せて行い、マップを見た若者が栃木市に来訪し、街なかの若者交流人口を増やす取り組み。</p> <p>②街歩きイベントは、高校生に限定して実施していたが、栃木市に関心ある大学生等を含めた若者に対しても実施する。</p> <p>③My記念日撮影会は、若者のライフイベント(成人式等)の際に栃木市の魅力あるロケーションを活用した記念撮影の場としての活用をPRする取り組み。</p> <p>【事業のPR方法】</p> <p>SNS(twitter、facebook)を活用し、市内外から通学する高校生及び大学生等をターゲットに情報発信を行い、栃木市への関心を高めてもらう。</p> <p>【翌年度以降の取組み】</p> <p>とちぎ高校生蔵部で活動するメンバーの加入促進に取組み、翌年度以降についても上記事業を拡充し、市外からの若者の来訪者及び市内に在住する若者のまちなか交流人口の新たな流れを構築する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」</p> <p>【具体的施策】交流人口の増加/観光資源の魅力向上と有効活用</p> <p>【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数 H26:365万人→H31:380万人 平成27年度実績:3,892,192人 平成28年度実績:未定</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①「栃木の街散策マップ」作成 ②「高校生イチオシ!蔵の街魅力ツアー」開催 ③「My記念日撮影会」開催	①「栃木の街散策マップ」作成 ②「高校生イチオシ!蔵の街魅力ツアー」開催 ③「My記念日撮影会」開催	①「栃木の街散策マップ」作成 ②「高校生イチオシ!蔵の街魅力ツアー」開催 ③「My記念日撮影会」開催		①「高校生イチオシ!蔵の街魅力ツアー」開催 ②「My記念日撮影会」開催
事業費	111,766	120,000	120,000	351,766	70,000
市町支出金(ソフト事業分)	100,000	100,000	100,000	300,000	50,000
うち県交付金	50,000	50,000	50,000	150,000	
市町支出金(ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	11,766	20,000	20,000	51,766	20,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	教育委員会事務局 生涯学習部 生涯学習課 青少年係
担当者名	藤野 法之
電話	0282-21-2489
FAX	0282-21-2690
E-mail	gakusyu05@city.tochigi.lg.jp

栃木県がまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	栃木市
事業名	栃木市版地域包括ケアシステム推進事業
事業主体の名称	一般社団法人栃木市地域包括ケア推進ネットワーク(あったかネットとちぎ)
代表者の名称	会長 佐々木 剛
事業主体の所在	栃木市城内町2-17-23 城内高齢者総合ケアセンター 蔵の街ひまわり
事業主体の概要	<p>・団体の目的: 栃木市の地域包括ケアシステムの確立と活動を支えるため、多職種連携により施設でも在宅でも最後まで自分らしく生きることの支援を行う。</p> <p>・設立年月日: 平成27年3月17日</p> <p>・構成員等: 栃木市医師会、下都賀都市歯科医師会、栃木市薬剤師会、栃木市訪問看護ステーション連絡会、栃木市介護支援専門員連絡協議会、栃木市特養・養護連絡協議会、在宅介護サービス事業所連絡会、医療法人アスミス</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>地域の特徴・現状・課題等(事業の内容と関連するもの)を記載</p> <p>栃木市では「生涯活躍のまち構想(栃木市版CCRC)」を推進するに当たり、多職種連携による地域包括ケアシステムの構築を目指しており、その過程で介護予防・日常生活支援総合事業のサービス創設、認知症施策の推進、医療介護連携の推進の取り組みを進めている。</p> <p>また、24時間定期巡回・随時対応型訪問介護看護の整備等の24時間在宅での安心を支える医療介護の連携体制が重要であり、特に看取りを視野にした在宅診療の体制整備が急がれている。</p> <p>医療介護ニーズの高い高齢者が在宅生活を続けられるためには、医療関係者や介護関係者が連携して在宅医療(看取りケア)を実践することが必要となる。併せて、在宅医療を推進することで高齢者本人が人生の最終段階を地域の中で迎えたいという意思を尊重する選択が可能となり、本人の意思を叶えるためには、本人とその家族の心構えと共に治し支える医療いわゆる在宅医療に関する理解を得ることが重要であることから、医療介護の連携や在宅医療の重要性を医療介護関係者や市民に啓発していく必要がある。</p>
事業目的	<p>事業の目的を簡潔に記載</p> <p>都市部の高齢者が自らの希望に応じて本市に移住し、「第二の人生」を歩むことを支援するために、人生の最終段階まで自分らしく生きることが支援する継続的なケア体制を市内に確保する。そのためには、医療介護関係者及び多くの市民に在宅医療(看取りケア)の必要性を普及啓発することで、本人の意思が尊重される医療・介護の必要性が栃木市全体に広がり、市民が在宅医療のサービス提供体制を強く求めるようになる。</p> <p>また、従来は医療介護サービスの受け手として「受動的」な存在であった高齢者を、栃木市版CCRCにおいて、同世代の高齢者の生活を支援する人材として「主体的」な存在として位置付けることを想定しており、高齢者が地域社会に溶け込み、地域住民や現役世代とも高齢者が安心して暮らすことができる栃木市版の地域包括ケアシステムの構築を目指す。</p>
事業概要	<p>当該年度の実施内容、翌年度以降の取組等を簡潔に記載</p> <p>栃木市版CCRCの推進に当たっては、高齢者のニーズに応じたきめ細かな支援を展開し、定住に結びつけることが重要である。その一環として、地域住民が構想段階から、「高齢者が地域社会に溶け込み、多世代との協働や地域貢献ができるコミュニティをどのように形成していくか」についての意見交換や検討を行う機会を設けることが必要であり、今年度は市民に対する在宅医療(在宅での看取りケア)の重要性や必要性を普及啓発するための講演会(シンポジウム)を開催する。</p> <p>【平成29年度】</p> <p>①在宅医療に取り組む実践事例による講演会</p> <p>②在宅医療に関わる医療介護関係者による事例発表及びシンポジウム</p> <p>開催日 平成29年10月28日(土)</p> <p>場所 栃木文化会館小ホール(栃木市旭町12番16号)</p> <p>講師 花戸 貴司氏</p> <p>テーマ 「在宅看取りケア」</p> <p>※事例発表者及びパネリストは検討中(栃木市内で看取りケアを実践する医療・介護関係者)</p> <p>【平成30年度】</p> <p>・在宅医療及び在宅見取りの実践事例による講演会を実施予定</p> <p>・開催日、講師等は未定</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>各市町の戦略から抜き出して記載</p> <p>【具体的施策】生涯活躍のまち構想(栃木市版CCRC)の推進/生涯活躍のまち構想(栃木市版CCRC)事業</p> <p>【KPI】東京圏から移住した高齢者数 H26:0人→H31:80人</p> <p>(参考)関東地方から移住した数値(60歳以上、県内での移住者を除く) H27:算出不可 H28:8人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	市民特別講座「最期まで住み慣れた自宅で暮らすための看取りケアシンポジウム」 ①実行委員会 ②シンポジウムPR活動 ③講演会及びシンポジウム	市民特別講座「最期まで住み慣れた自宅で暮らすための看取りケアシンポジウム」 ①実行委員会 ②シンポジウムPR活動 ③講演会及びシンポジウム	・見取り講演会、シンポジウムの開催 ・終活カレッジ立ち上げの準備 ・介護人材の育成のための研修会		・終活カレッジの立ち上げ ・元気な高齢者の交流を支援するミニデイサービスの立ち上げ準備 ・介護人材の育成のための研修会
事業費	621,228	305,000	400,000	1,326,228	400,000
市町支出金(ソフト事業分)	300,000	150,000	200,000	650,000	200,000
うち県交付金	150,000	75,000	100,000	325,000	
市町支出金(ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	321,228	155,000	200,000	676,228	200,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	保健福祉部 地域包括ケア推進課 地域包括ケア
担当者名	中村 康広
電話	0282-21-2244
FAX	0282-21-2670
E-mail	houkatsu@city.tochigi.lg.jp

栃木県がまち未来創造事業計画(実績)書(単体事業調書)
【単体事業】

市町名

栃木市

事業名

渡良瀬バルーンレース開催事業

事業主体の名称

渡良瀬バルーンレース実行委員会

代表者の名称

実行委員長 神島 馨

事業主体の所在

〒323-1192 栃木県栃木市藤岡町藤岡1022-5

事業主体の概要

団体の目的:渡良瀬遊水地において熱気球大会を開催し、スカイスポーツの普及及び啓蒙を図り、もって地域振興に寄与すること
 ・設立年月日:平成23年1月17日
 ・構成員等:一般社団法人栃木市熱気球クラブ、藤岡町商工会、栃木市藤岡町観光協会、下野農協協同組合、一般財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団、特定非営利法人熱気球運営機構、栃木市、栃木市藤岡地区体育協会、栃木市藤岡女性団体連絡協議会、藤岡町まちづくり委員会、足利銀行藤岡支店、栃木信用金庫藤岡支店

当該事業に係る地域の現状と課題

地域の特徴・現状・課題等(事業の内容と関連するもの)を記載
 「渡良瀬バルーンレース」は、2000年より開催し、当初より実行委員会を組織して、行政主体ではなく地元住民や競技団体の意見を反映できる市民協働のイベントとして開催している。渡良瀬遊水地は3,300haあり、本州最大のヨシ原でその広大な立地特性から以前からスカイスポーツ、ウォータースポーツが盛んな場所であり、地元栃木市に熱気球クラブやスカイダイビングのNPO法人などあり、日常的に親しまれている。しかし、広大な土地や貯水池などの自然環境や地域資源を活かしているとは言えず、利用者や観光客のニーズを満たすことができていない。今後は本市への新しい人の流れを作るために、ラムサール条約の基本理念である環境保護と、地域資源の利活用の両面を、一般の市民および市外、県外、世界の方にPRし、ルールとマナーを守って今ある環境を未来につなげるための取り組みが必要である。県内外から新規の観光誘客の促進を図り、自然環境の保護と、これまで行われてきた広大な遊水地で特色のあるレジャースポーツの利活用を強化、両立し、いかに地域住民、イベント参加者、観光客に対して環境保全の周知と遊水地の魅力のPRをできるかが観光客入込数を増加させるための課題である。

事業目的

・渡良瀬遊水地及び周辺で日常的に親しまれているレジャースポーツの熱気球による、栃木市の地域振興、熱気球人口の増加及び熱気球競技に携わる選手等の技術育成を行う目的で始まったイベントである。来訪者に対し、渡良瀬遊水地および栃木市のさらなるPRを行い、本イベントを市の玄関口とし、本市の見どころを紹介し、交流人口の増加や滞在時間が増えることによる宿泊客増加による地域の活性化を目指すとともに、熱気球の魅力を広め熱気球に携わる者の栃木市への定着を図る。

事業概要

当該年度の実施内容、翌年度以降の取組等を簡潔に記載
 今年度は、小学生向け熱気球教室を例年より拡大し、1市5町の合併後同じ市となった他の地域も対象とすることによる周辺の市民だけではなく市民全体へのイベント周知を図る。栃木県東京事務所を通しての告知や大会会場への案内看板等を充実させ近年増えつつある県内外からの来訪者のさらなる増加とスムーズな誘客を促進する。また、目玉プログラムの一つであるバルーンイリュージョンが夜間に行われるため、会場内照明の追加や夜桜ライトアップを行い暗がり減らすことで会場内の通路等の安全・安心を確保し、ホスピタリティの向上を図る。
 【時期】平成29年4月7日(金)、8日(土)、9日(日)
 【会場】藤岡渡良瀬運動公園、渡良瀬遊水地内及びその周辺
 【主な内容】①小学生向け熱気球教室(告知事業)・・・(熱気球の原理を学んだり、ミニ熱気球を作り実際に飛ばしてみる体験を通して競技及び大会の魅力を感じる教室)
 ②ホンダグランプリ第1戦渡良瀬バルーンレース大会・・・(国内のトップ選手たちによる熱気球の大会)
 ③バルーンイリュージョン・打上花火・・・(夜桜と共に感じる熱気球ライトアップと打上花火のコラボレーションによるプログラム)
 ④ウルトラライトプレーン展示、ペーパーグライダー体験教室、モーターパラグライダーデモンストレーション・・・
 (普段、間近で見ることのできない機体を見たり触ったりしたり、ペーパーグライダーを作り飛ばす体験)
 ⑤熱気球教室、熱気球係留搭乗体験・・・(広大な渡良瀬遊水地で行われる熱気球競技のルールを学んだり、体感する体験)
 ⑥同時開催:さくら祭り・・・(日本で唯一さくらと共に観戦できる大会であるため競技の間、来訪者を退屈させないため、特設ステージでの歌や踊りの披露及び地元グルメ等の販売)
 ⑦渡良瀬遊水地及び栃木市PR・・・(渡良瀬遊水地の歴史や自然環境のパネル紹介および、栃木市全体の観光地各所の紹介)
 年間を通して楽しんでいるレジャースポーツは、今回のイベント開催に限らず、9月の渡良瀬遊水地フェスティバル、11月のウォーキング大会など市主催のイベントにて各種の利用団体および一般参加者に本イベント及び熱気球競技の周知に努める。翌年度以降も「栃木市PRの玄関口」を継続しながら、栃木市の宝である渡良瀬遊水地で特色のあるレジャースポーツに力を入れて、新しい観光客の増加に努め事業の拡大を図る。
 ・渡良瀬遊水地は地域特性として4県4市2町にまたがり、もともと市外、県外からの来訪者が多いが、広報活動においては、各種のレジャースポーツを楽しむ団体の方々や一般の来訪者へ市の広報の他に、タウン誌やラジオ、HP、facebook、チラシ、ポスター等で周知を行い、県内外へのさらなる広域的なPRを行う。

事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI

各市町の戦略から抜き出して記載
 【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」
 【具体的施策】交流人口の増加/観光資源の魅力向上と有効活用
 【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数 H26:365万人→H31:380万人
 平成27年実績:3,892,192人 平成28年実績:未定

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

事業内容	(単位:円)			
	29年度	30年度	31年度	支援期間の事業費計
①小学生向け熱気球教室(告知事業) ②ホンダグランプリ第1戦渡良瀬バルーンレース大会開催 ③バルーンイリュージョン・打上花火 ④ウルトラライトプレーン展示、ペーパーグライダー体験教室、モーターパラグライダーデモンストレーション ⑤熱気球教室、熱気球係留搭乗体験 ⑥同時開催:さくら祭り ⑦渡良瀬遊水地及び栃木市PR	5,514,000	5,514,000	5,514,000	16,542,000
市町支出金(ソフト事業分)	4,300,000	4,300,000	4,300,000	12,900,000
うち県交付金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000
市町支出金(ハード事業分)	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0
その他自主財源等	1,214,000	1,214,000	1,214,000	3,642,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	産業振興部 藤岡産業振興課 商工観光係
担当者名	小野 鼎久
電話	0282-62-0907
FAX	0282-62-0918
E-mail	f-sangyou04@city.tochigi.lg.jp